



日本消化器外科学会総会高校生招待企画に、10人の生徒が参加！

普通科
探究科

下関市民会館で開催された第79回日本消化器外科学会総会において、7月19日(金)に高校生招待企画が実施され、普通科の1年次生が3人、2年次生が2人、探究科の2年次生が3人、3年次生が2人参加しました。高校生招待企画では、全国各地の医学部医学科で消化器外科学講座等の主任教授を務められている先生方との対談や、手技の体験などが実施されました。



高校生招待企画に参加した本校の生徒

60分間にわたって行われた対談では、高校生がそれぞれ3人のグループに分かれ、主任教授である大学の先生方より、これまで歩まれてきたキャリアや外科医の魅力を伺うことができました。また、高校生からは、医師になることの意義や医師として働くときの労働環境について質問することができました。対談が終了したのち、実際に手術で使用されている



グループに分かれて、大学の先生方から外科医の魅力を伺う

サージカルガウンやメディカルキャップ等を身に着けて、縫合や糸結びなどの手技を体験するハンズオンセミナーが行われました。ハンズオンセミナーでは、普段の手術で用いられている縫合針や縫合糸を使用するとともに、腹腔鏡やロボット



手技を体験する生徒



3Dで表示された画面を見ながら、Da Vinciを操作する生徒

(Da Vinci) を使った手技にも挑戦し、外科医のみなさんが日ごろから取り組まれている仕事を体験することができました。

参加した生徒は、「外科医の勤務は厳しいと聞いていたが、工夫されていることがわかった。」や「患者さんの命を救うための医療活動に、魅力を感じた。」などの感想を述べていました。大学の先生方からは、「医学部医学科への入学は困難であるため、ゴールとってしまうことがある。しかし、入学は、医師になるためのスタートラインにただでしかない。そこから医学に関わる知識を身に付け、技術を習得し、国家試験に合格する必要がある。やりがいのある仕事であるから、ぜひ頑張ってもらいたい。」とエールを送っていただきました。参加した本校生徒にとって、将来の進路を考えるよい機会となりました。

課題研究に取り組む探究科2年次の地理歴史1班が、下関市観光政策課に質問しました。

探究科

下関市の観光の活性化に向けて、地理の視点から研究に取り組んでいる探究科2年次の地理歴史1班が、6月中旬に下関市観光スポーツ文化政策課に電子メールで質問しました。地理歴史1班では、観光政策課の調査をもとにして、下関市の魅力を伝えるための観光ルートマップの作製に取り組んでいます。このたびは、下関市のウェブページに公開されているアンケート調査の結果などについて、問い合わせたところ、調査方法などを、丁寧に教えていただきました。9月の中間報告会まで、残り時間は少なくなりました。研究を深め、充実した発表ができるよう準備しましょう。



研究に取り組む地理歴史1班の生徒

立命館アジア太平洋大学訪問に向けた、ガイダンスを実施しました。

探究科

11月6日(水)に探究科の2年次生が取り組む立命館アジア太平洋大学(以下、「APU」という。)訪問に向けたガイダンスを7月25日(木)に実施しました。オンラインで実施したガイダンスでは、APUの特徴として、在籍するおよそ5,000人の学生のうち半数が海外からやってきた留学生(APUでは、「国際学生」と呼んでいます。)であることや、95%の授業が日本語と英語でそれぞれ開講されていることを知ることができました。さらに、キャンパスの中にあるAPハウス(学生寮)では国際学生と共同生活を行い、普段から英語で会話する環境が整えられています。入学前は英語に不安がある学生もいるようですが、英語を運用する能力別に編成された授業や、日常生活で英語を活用することにより、卒業するころには、英語で意思疎通ができるようになり、その結果、海外の企業に就職したり、国連の職員として活躍したりする卒業生もいらっしゃるようです。



世界各地で活躍するAPUの卒業生を紹介



オンラインで質問に挑戦

このたびのガイダンスは、オンラインで実施しましたが、11月には大分県別府市のキャンパスを訪問し、国際学生にインタビューをし、その成果をまとめて英語で発表します。実りある活動となるよう、しっかり準備を進めてください。

理系女子キャンプに、普通科3年次の生徒2人が参加しました。

普通科

探究科

4月3日(水)と4日(木)に開催された、TYLスクール理系女子キャンプ2024に、普通科の3年次生2人が参加しました。理系女子キャンプは、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構(以下、「KEK」という。)が主催するもので、国立の女子大学であるお茶の水女子大学や奈良女子大学が運営に関わっています。全国から応募したおよそ200人の中から選ばれた30人の女子高生が、茨城県つくば市にあるKEKの施設に集合しキャンプが行われました。キャンプでは、グループに分かれて科学実験に取り組むとともに、大学や研究所などで活躍されている女性研究者や大学院生とのディスカッションに参加しました。実験では、放射線を観察するための霧箱を作り、ラドンが α 線を出して放射性崩壊する様子を見ることができました。また、ディスカッションでは、女性研究者のみなさんから研究生活の魅力について伺うとともに、「興味や関心は変化していくものなので、高校生のうちは、幅広く学んでおくことも大切である。」などのお話を聞くことができました。さらに、電子・陽電子衝突型加速器であるSuperKEKBの見学や、加速器から生まれる放射光で物質や生命のしくみを原子レベルで研究するフォトンファクトリーを訪問するなど、研究者の方々が活動されている場所を直接見ることができました。



理系女子キャンプに参加した生徒

参加した生徒は、「研究者として活動されている方々は、遠い存在のように感じていたが、気さくに話しかけていただき、身近な大人と同じように感じた。しかし、真実を追究しようとされている姿は、とてもかっこよかった。」などの感想を述べていました。これから大学への進学を目指す3年次生にとって、それぞれの進路を考えるための貴重な体験となりました。

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。